

国語選抜試験

新中二

一 次の——線の読みを書きなさい。

- (1) 明日の朝早いので、早めに就寝する。
- (2) 祖父の家にある皿を珍重する。
- (3) 薄情な仕打ちを受ける。
- (4) 事実を基にした小説を読む。
- (5) 傷んだものは食べてはいけない。

二 次の——線を漢字で書きなさい。

- (1) 熱を出して私は数日間びようしように横たわっていた。
- (2) 食品にはてんかぶつを一切使用していない。
- (3) バッテイング練習でずい打球を飛ばす。
- (4) せすじを伸ばす運動をする。
- (5) 彼は宇宙に関する学問をついきゅうしている。

三 次の各問いに答えなさい。

- 問一 次の各文はいくつの文節からなっていますか。漢数字でそれぞれ書きなさい。
- (1) リビングで新聞を読んでいる父に挨拶した。
 - (2) 遅くまで寝ないで、翌日の学校の勉強の予習をしていたようだ。

問二 次の□にあてはまる言葉を、漢字一字でそれぞれ書き、慣用句を完成させなさい。

- (1) あの人は気晴らしにとなりの部署に□を売りに行った。
- (2) クマが□をしめて、人里の田畑に何度も出てくる。

次の詩を読んで、問いに答えなさい。

ぼろぼろな駝鳥だちよう

高村光太郎たかむらこうたろう

何が面白おもしろくて駝鳥を飼ふのだ。

動物園の四坪半つほのぬかるみの中では、

脚あしが大股おおもた過ぎるぢやないか。

頸くびがあんまり長過ぎるぢやないか。

雪の降る国にこれでは羽がぼろぼろ過ぎるぢやないか。

腹はらがへるから堅かたパンも食たふだらうが、

駝鳥の眼めは遠くばかり見てゐるぢやないか。

身みも世もないように燃もえてゐるぢやないか。

瑠璃るり色の風かぜが今にも吹ふいて来るのを待ちかまへてゐるぢやないか。

あの小さな素朴そぼくな頭あたまが無辺大の夢で逆さかまいてゐるぢやないか。

これはもう駝鳥ぢやないぢやないか。

人間よ、

もう止よせ、こんな事は。

(注) 無辺大——限りなく大きいこと。

問一 この詩の種類を、漢字五字で書きなさい。

問二 この詩に用いられている表現技法を、ア～オからすべて選びなさい。

- ア 擬人法 イ 反復法 ウ 体言止め
エ 直喩 オ 倒置法

問三 ——線「こんな事」とありますが、どのようなことですか。次の文の□ A・Bにあてはまる言葉を、詩の中からAは十五字以内で、Bは五字でそれぞれ書きぬきなさい。

・ □ A で □ B こと。

問四 作者は、駝鳥がどのような願いを持っていると考えていますか。最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア もっと雪が降るところを見たいという願い。
イ 故郷の広大な草原に帰りたいという願い。
ウ オリの外の世の中を知りたいという願い。
エ 美しい脚や頸や羽を持ちたいという願い。

問五 この詩の主題として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 動物と心を通わせることの喜び。
イ 人間社会の罪深さに対する恐れ。
ウ 不条理な人間社会に対する憤いきどおり。
エ 駝鳥の野生の美しさに対する憧あこがれ。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「私」は、六十四歳の数学博士の家に、家政婦として勤めることになった。」

「君の靴のサイズはいくつかね」

新しい家政婦だと告げた私に博士が一番に尋ねたのは、名前ではなく靴のサイズだった。一言の挨拶も、お辞儀もなかった。どんな場合であれ、雇い主に対し **A** に質問で答えてはならないという家政婦の鉄則を守り、私は問われたとおりのことを答えた。

「24です」

「ほお、実に潔い数字だ。④4の階乗だ」

博士は腕組みをし、目を閉じた。しばらく沈黙が続いた。

「カイジヨウとは何でしょうか」

何故かは知らないが雇い主にとって靴のサイズが意味深いものであるなら、もう少しそれを話題にのぼらせておくべきではと考え、私は質問した。

「1から4までの自然数を全部掛け合わせると24になる」

目を閉じたまま博士は答えた。

「君の電話番号は何番かね」

「576の1455です」

「5761455だって？ 素晴らしいじゃないか。1億までの間に存在する素数の個数に等しいとは」

いかにも感心したふうに、博士はうなずいた。

自分の電話番号のどこが素晴らしいのか理解はできなくても、彼の口調にこもる温かみは伝わってきた。自分の知識を見せびらかす様子はなく、むしろ逆に **B** と素直さが感じられた。もしかしたら自分の番号には特別な運命が秘められており、それを所有する自分の運命もまた特別なのではないだろうか、という錯覚に陥らせてくれる温かみだった。

家政婦として通いはじめてからしばらく後、何を喋っていたか混乱した時、言葉の代わりに数字を持ち出すのが博士の癖なのだと判明した。他人と交流するために彼が編み出した方法だった。数字は相手と握手をするために差し出す右手であり、同時に自分の身を保護するオーバーでもあった。上から触っても身体のラインがたどれないくらい分厚くて重く、④誰一人脱がせることの不可能なオーバーだった。それさえ着ていけば、彼は取り敢えず自分の居場所を確保できた。

(小川洋子「博士の愛した数式」より)

問一 **A** にあてはまる最も適当な言葉を、文中から二字で書きぬきなさい。

問二 **B** にあてはまる言葉として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア つつしみ イ 重み

ウ 弱み エ 深み

問三 線①「君の靴のサイズはいくつかね」、③「君の電話番号は何番かね」とありますが、博士がこのような質問をしたのはなぜですか。その理由を「初対面」という言葉を用いて、三十文字以内で書きなさい。

問四 線②「4の階乗」とありますが、それはどのようなものですか。文中の言葉を用いて書きなさい。

問五 線④「誰一人脱がせることの不可能なオーバー」とありますが、何をこのようにたとえていますか。文中から一語で書きぬきなさい。

問六 「私」が博士に対して抱いている感情として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 博士が靴のサイズや電話番号を聞くことにとまどっている。

イ 数字を通じてしか他人と交流できない博士に同情している。

ウ 言葉の代わりに数字を持ち出す博士に反感を抱いている。

エ とまどいいつも博士の温かい話しぶりに好感を覚えている。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

① 多くの人は、何か行動を起こすとき、うまくいったときのことをイメージしながら「こうすればうまくいくはず」「こうあるべき」と考えて行動しているはずだ。最初から自分が失敗したときのイメージを持って行動できる人はあまりいません。

② しかし、うまくいく状態をイメージしながら行動していても、ふつうはなかなか思い通りにはいきません。結果としてうまくいくことより、むしろ失敗することのほうが多いものです。

③ そう考えると、「最初から失敗を想定して行動する」というのは、非常に大切な考え方であることがわかります。でも多くの人は、「うまくいくはず」や「こうするべき」で動こうとします。

④ 失敗後の対処も同じです。「こうすれば大丈夫なはず」とか「このような対処をすべき」と、これまたうまくいく状況をイメージして動こうとします。しかし、そうした「A」や「B」にはとくに根拠はないので、当然、うまくいくどころか傷口をさらに広げることで、自分が多量に窮地に追い込んでいます。実際、失敗後の「A」や「B」で行動している人の多くは、よかれと思った行動で逆に自分を窮地に追い込んでいます。

⑤ なぜそのようなことが起こるのか。それは失敗のショックやダメージが、自分が想像している以上に大きいことが計算に入っていないからです。人は失敗するとすぐ大きなエネルギーをロスするということがわかっていないのです。

⑥ 失敗が「成功の元」であり「成功の母」であるとの底から信じている人は、「どんな大きな失敗とも真正面から向き合っ対処できる」と考えるかもしれません。しかし実際に失敗してしまったとき、その失敗と真正面から向き合える人はそうしているものではありません。

⑦ 大きな失敗の直後であればなおさらです。そうした場合、ふつうは失敗について考えることさえ苦痛で、その時点では「失敗に向き合ってちゃんと対処することなど不可能ではないか」と思っています。

⑧ そんな状態でもなかには、「失敗とは真正面から向き合うべき」「失敗と向き合っていれば必ず道が開けるはず」と考えて頑張ろうとする人もいます。しかし、このように無理して自分を鼓舞し続けるのは、自滅の方向に追い込んでいくことです。なぜなら失敗に立ち向かうエネルギーがないのに、無理矢理エネルギーを絞り出すことを自分に強いているからです。そのようなことを続けていたら、もともとの減っているエネルギーがすぐに涸れ果てて潰れてしまいます。

⑨ 苦しいときにも頑張つて、一時的に無理をするというのは、確かに窮地から脱するひとつの方法です。ただし、この方法が使えるのは自分にまだエネルギーが残っているときに限られます。エネルギーがないときに頑張ろうとするのは、勝負見込みの薄いギャンブルに身を預けるようなものです。エネルギーがそれほど残っていないのに、自分に負荷をかけたら、あっという間にエネルギーがなくなってしまうです。その挙げ句、潰れて再起不能になっている人は現実にはたくさんいます。

⑩ 失敗した人に向かって、よく「もつと頑張れ」と声をかける人がいます。その人はよかれと思ってやっているようですが、これはほとんどの場合、相手に「はげましどころかたいへんな苦痛になっています」。

⑪ 失敗した人は、心の中では「いまの状況に負けずに頑張りたい」と思っています。しかし、そう思っているでもエネルギーが枯渇しているのだから行動することができません。そのときに周りがかかる「もつと頑張れ」という言葉は、「もつとエネルギーを出せ」と言っているのと同じです。つまり、エネルギーがないのにエネルギーを出すことを強いるのです。これでははげますどころか、逆に失敗した人を追い込むことにしかありません。

(畑村洋太郎「回復力 失敗からの復活」より)

問一 この文章では、次の段落がぬけています。どの段落のあとに入りますか。段落番号を書きなさい。

・このように、自分で自分を追い込んでしまうということが、失敗直後にはよくあります。これとは別に、周りが失敗した当人を追い込んでしまうこともよくあります。そのなかでも最悪なのは、悪気がなく相手を追い込んでしまうことです。

問二 文中に二つずつある A・B にあてはまる言葉を、文中からひらがな二字でそれぞれ書きぬきなさい。

問三 5 ～ 7 段落の関係の説明として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 5 段落で疑問点を挙げて 6 段落でそれについて分析し、 7 段落で結論づけている。

イ 5 段落で主張を述べて 6 段落で具体例を挙げ、 7 段落で話題を転換している。

ウ 5 段落の内容を 6 段落で違う視点から考察し、 7 段落で発展させている。

エ 5 段落で問題提起して 6 段落でそれに答え、 7 段落でその根拠を述べている。

問四 線①「自滅の方向」とありますが、自滅した状態の人について具体的に述べた部分を、文中から十四字で書きぬきなさい。

問五 線②「相手にははげましどころかたいへんな苦痛になっています」とありますが、「もつと頑張れ」という言葉が、どのようなものであり、どうであるから苦痛になるのですか。「もつと頑張れ」という言葉は、「」に続けて、四十五字以内で書きなさい。